

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370500245		
法人名	笠岡市		
事業所名	笠岡市炉端の家		
所在地	岡山県笠岡市吉浜1399		
自己評価作成日	平成22年3月15日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kaigo-kouhyou.pref.okayama.jp/kaigosip/informatiionPublic.do?JCD=3370500245&amp;SCD=320">http://kaigo-kouhyou.pref.okayama.jp/kaigosip/informatiionPublic.do?JCD=3370500245&amp;SCD=320</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート		
所在地	岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO・会館		
訪問調査日	平成22年3月23日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・その時その時を大切に、お年寄りの想いを形にできるようにしています。重度化・認知症の進行もありますが、日々共に暮らししていく中で、お年寄りが心の中に抱えている想いや感情を見逃さずに、その時、お年寄りが望んでいるであろうことを実現できるよう、お年寄りの立場になって考え、行動しています。</p> <p>・炉端の家が開所してもうすぐ、14年。その14年という月日の中で築いてきた様々な人と人とのかわりを絶つことなく、これからもつなげていくことを今年の職員の目標に掲げています。</p>
---

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>笠岡市が事業主体で運営し、理想的な認知症ケアで信頼を獲得して14年経過した、日本で唯一のケースである。認知症ケアの理論を研修センターで、その実態を炉端の家で、認知症高齢者を世話してきたトップランナーのホームである。このホームは何でも出来るだろうと思われがちであるが、今まで職員達の努力で14年間続けて来られ、笠岡市としても、きのこグループとしても、プライドを持たずの尊いものであると管理者は語ってくれた。10周年記念としてお祭りに地域の人々が100人以上集まって祝ってくれた事はものすごい事だと、その実績で確認出来た。これから15周年記念に向けての準備を進めて行こうとするグループホームの歴史を感じる事が出来た。</p>
---

## ・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念「認知症という病気があっても家庭的な環境の中で自信を取り戻し、人間らしくゆったり穏やかに一人ひとりの生活を大切に、その人らしさを引き出そう」を掲げ、職員の目につく所に掲示している。	自分の気持ちが前に向いていない時、ふと心の中で気付くのが、理念にあるフレーズである。自分の気持ちが乱れた時や考えに誤りがあった時に、正しい方向に導いてくれるのが理念であると管理者は語ってくれた。見事な考えである。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	近くにある中学校のボランティア部が毎週2回、部活動を兼ね、施設内の手伝いをしてくれている。また、町内の祭りには子供神輿が立ち寄ってくれる。	平成22年度のこのグループホームの目標は「つながりを大切にする」であり、職員が一番目につく更衣室兼ロッカーの入口の扉の内側に貼ってある。繋がりは幅広い所にあるが、地域もその一つである。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	特に取り組みとしては行っていないが、ボランティア等の要望があれば行っている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者家族・市職員・地域の方々への参加、協力で開催し、秋祭りへ地域の方々に参加をして頂いた。	運営推進会議運営要綱を作成し、目的・会議の内容・記録と告知等を定め、毎年委員を選定している。運営推進会議では、このホームの大きい行事、例えば秋祭りに関係するボランティアも出席している。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	笠岡市の施設という事もあり、常に連絡を取り合い、施設の事やケアサービスに関して報告を行い、様々な情報・意見を頂いている。	運営推進会議には市の介護保険課や保健福祉課の職員も出席している。市はこのグループホームの運営者でもあり、市の目標も「市民の目線」を大切にしており、グループホームの利用者の目線の大切さにも繋がっている。	運営主体が市であるホームなので、対外的な会議や行事等、市の方が主導権を持っていると思うが、定例的な会議等はホームの自発性が発揮出来る様、配慮して貰えればと思う。(外部評価機関提案)
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日ごろのケアに関して、ミーティングで本人にとって苦痛を感じさせていないか、安全で有るかなどを話し合い、職員間の意識の統一を図っている。	職員ミーティングで「利用者一人ひとりの状態によってケアの内容も変わり、その都度利用者への対応も変えていかねばならない。どのようにしたら苦痛なく、安全に過ごして貰えるか」等、常に話し合っている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常にケアの見直しをし、高く意識をもって関わっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度について学ぶ機会がなかった。研修や学ぶ機会を設け、しっかりとした対応をしなければならぬと考えている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	御家族へはなるべくわかりやすい言葉を使い、ゆっくりと時間をとり説明している。契約時などは必ず市職員と共に説明をしている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時必ずスタッフが最近の様子を話したり、電話連絡時に話しをする機会に御意見を伺ったりしている。また、ケアプランに家族の要望欄を設けており、説明時には御意見御要望をお聞きしている。	常日頃から職員は家族に「こんな時どのように声掛けしたら良いか」「人生歴からこの人に何をしたらあげたら一番喜んでくれるだろうか」等、何時も相談しているため、家族も色々な事を言ってくれる関係作りをしている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングにおいて、しっかりと職員同士の意見交換を行うようにしている。また、職員からの相談にはいつでも耳を傾けている。	職員ミーティングは活発である。ケアについて・行事について・議題について等、話し合うと職員一人一人が思いを持っていて、納得いくまで話し合うので、夜8時から始めて直ぐに夜中0時を回ってしまう。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフ同士が思っていることを言い合え、想いを形にしていけるように努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々で研修に行き刺激を受けたり、取り組みの発表をさせてもらっている。その事により、仕事への意欲と自信につながっている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	取り組みとしては行っていないが、同グループのグループホーム間や研修等で関わりを持った施設との訪問等は行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	個々のスタッフが個性と専門性を活かし、いつでも本人の声を聞けるように本人らしい生活づくりに努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前、入居後に関わらず、家族等との何気ない会話から相談、要望に至るまで耳を傾け、少しずつ関係をつくっている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ミーティングにおいて、「その時」必要としているケアをしっかりと職員同士でご家族のご意見を交えて話し合っている。また、行っていくケア等をご相談し、意見交換を行うようにしている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	同じ食卓を囲みながら、一緒に泣いたり、笑ったりと同じ時間を共有している。時には職員が励まされたりし、支えて頂きながら共に生活している。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時にはご家族との時間を大切にしている。また、些細な事でもお伝えし、ご家族のご意見をお聞きし、それを最優先に考え、ケアに反映している。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人に面会に来ていただいたり、生まれ育った家に遊びに行ったり、御本人が大切に思っている人や場所を職員も大切に思い、関わっている。	「私は主人と喧嘩一つした事無いの。良い人でしたよ」と亡きご主人を懐かしむ。「あ～れよいよ～い」と白石音頭を手振りで踊って見せてくれる。認知症が進んでいっても、自分の過去と語れるのは心の中の馴染みとの再会である。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	重度化しており、利用者同士の関わりがなくなっている。その為、職員が間に入ったりし、フォローが欠かせない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまで、そういう事例がないが、つながりを大切にしているので、断ち切るという事はしない。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ミーティングにおいてスタッフ同士が本人の希望や意向を話し合っている。また、何年も生活しておられる方が多いので生活歴を基に考えたりしている。	認知症や身体的に重度化が進み、会話の出来ない利用者も多くなっている。その中で職員は食事介助をしたり、排泄介助・入浴介助をしたり、部屋で寄り添ったりして、言葉や表情から職員の感性を生かして利用者の心の中を察知している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	可能であれば、ご家族等にご本人の生活歴等を聞かせてもらい、日々の生活に役立てている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の中で小さな変化や声を拾い上げ、職員が気づいたり、感じた事を職員同士で話し合い、すぐに対応し行っている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人には日常生活の中での何気ない言葉にも耳を傾けて、お気持ちを伺うように努めている。ご家族等には面会時や電話連絡の際に希望や意見をお聞きし、計画を作成している。	家族の希望はケアプランの中に自身が詳しく書き込んでいてケアに関しての希望や注文も見受けられる。「グッパー、グッパーなど手を動かす様に声掛けして下さい」等家族も本気で考えている。家族と職員が日頃話し合っている事がよく判る。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の記録は細かく記入し、ちょっとした変化にも気付けるようにしている。また、ミーティングにおいてしっかりと話し合いを持つ事で情報の共有がなされている。その結果、介護計画に活かされている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状態の把握や広い視野を持つようにし、固執しないようにしている。また、その時々状態に対応できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元中学生の手伝い、地域住民に開放する秋祭り等とおし、ふれあうことにより暮らしを楽しむことができるよう努めている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院と連携を取り、受診が必要な時にはご家族へ連絡をしている。また、希望する病院があれば受診していただけるようにし、適切な医療を受けられるようにしている。	主治医はきのこエスポアール病院の院長で、受診や相談を気安く出来る。2週間に1回はホームに院長が来て、利用者の様子を見てくれるので安心である。通院はホームから連れて行き、病院で家族と合流する事が多い。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力病院の看護師と連携を取り、状態報告をしている。また、状態が悪くなった時には毎日連絡を取り合い、指示を仰いでいる。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報提供書とともに職員が主治医や病院関係者と情報交換を行い、状態の把握に努め、退院してからの対応等も相談している。必要な場合は当事業所の主治医と直接医師同士で話しをして頂き、今後の事を含めての話しをしている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りについての同意書を基にご家族等と話し合い、方針を決定している。その同意書内に当事業所での対応などを書いている。また、その時々で話しをしている。	重症化している利用者は多いが、医療措置入院を要する以外は家族の希望によって最期まで看取る事を考えている。その前に食べられなくなった時、胃瘻にするかホームで最期まで食べさせるかの葛藤はよくあり、過去の経験を山口市で行われた福祉系教育関係の研修会で管理者が発表した。参加者は熱心に聴講した。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会に参加したり、マニュアル等の確認を各職員が行っている。また、ミーティングで確認し合っている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の避難訓練を行い、マニュアルも作成している。全職員が確認、実行できるようにしている。	避難訓練をしたり、マニュアル作りや緊急連絡網は整備されている。普通は火器を使う事はないし、設備的にも完備されているので火災の事は先ず心配ないと思うが、この立地で夜間一人勤務は心細い事だろう。	グループホームの夜間勤務が一人という不安な要素がある。災害や人災に対し夜間のあるべき姿をどうするか、市の事業体として何か先駆者として検討してみても如何だろうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの性格の違いを把握し、その人に合わせた対応や声掛けをしている。	食べる事でも排泄する事でも、美味しいだろうとか、すっきりするだろうと思うのは介護している人の立場での考えであって、本人は果たしてどう思い、感じているのかギャップがあるのではないかと 思う。もっと利用者の心を満たす、その人の気持ちに合った時間の過ごし方を考えていかなければならない。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望を口にされる事が少なくなってきた。職員がご本人の意思を優先に考え、希望を少しでも表現して下さるように声掛けの仕方を工夫している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	なかなか自分で希望を言える身体状況ではなくなってきたので、今までのその方の生活を大切にしながら日々を過ごしている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居され、長い期間利用している方が多く、好みを職員が把握している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	重度化により、一緒に準備・片付けをするという事は難しい。食事形態も異なるが、その方が食べやすくおいしいと感じて頂けるように好みを把握しながら食事を提供している。	利用者の殆どが重度化して、鯖の魚ですら擦り身状にしないと食べられない状態にある。訪問の日は5人がリビングルームで食べたが、この中に職員が入って介助しながら話し掛けをして楽しく過ごしていた。他は部屋で食事していた。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に合わせ、食事形態・量も考え、対応している。また、食事の量が低下されている方には代替えとして、好むものを提供している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後は行っていない。ナイトケア時、口腔ケアを行うようにしている。また、その時々で必要に応じても行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	身体状況が低下していくなかでも、状態がよい時や本人の訴えがある時にはトイレに座っての排泄を大切にしている。	座位が保たれたら便座に座り排泄するようにしている。トイレは部屋に備え付けられているが、歩行が難しい人には、夜間はポータブルトイレを使って転倒による骨折を防止している。骨折して病院でオムツの人がホームで紙パンツまで回復出来た事例もある。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの身体的な状態に応じて工夫しているが、まだまだ足りない部分が多く知識を身につけ、対応していかないといけないと考えている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望には応じるようにしているが、言葉にして言われる方が少なくなっている。さしあたって、決めごとなどはないが、ゆっくりとリラックスして頂けるように努め、個々に身体状態に合わせて入浴法を変えている。	現在は一般の浴室で入浴しているが、入浴の介助は全員必要となるので、以前から浴室の改造を市で検討して貰っていたが、来年度はようやく実現しそうな状況にあり、完成すれば浴槽の周辺から介助出来るようになるそうだ。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	身体機能が低下してきており、ずっと座って過ごすという事が難しくなっている。職員はその方の状態に合わせて、その時々で横になり休んでもらっている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	何の薬を服用しておられるかファイルで確認できるようにしている。特に薬の内容が変わった時などは気にかけて状態をみている。また、協力病院の看護師に状態を報告したり、対応方法を相談している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	認知症の進行、身体機能の低下等があるが、趣味、嗜好を大切に、その人らしさをうしなわない生活を提供できるようにしている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	自ら希望を表現することが難しくなっているが、個々の状態やふともらした言葉を大切に、家族の協力のもと嫁ぎ先や実家・お墓参り等出掛けている。又地域の祭り・運動会等の行事にも参加し、地域の方々と少しでも触れあえるようにしている。	利用者の重度化は介護の量が増える(寝たきりになっても人間らしく過させる)と職員の数(現在7人正職員配置)がぎりぎり一杯となり、外に連れて出る機会を失う。職員も外に連れて行ってあげられないストレスが増える。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	いつでも個人のお金を使えるようにしているが、認知症が進行している為、職員で管理をしている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら電話をかけたり、手紙を書くことは難しくなっているが名前だけでも書いて頂いたり、職員がかわって代筆も行っている。また、出掛けた時の様子を手紙に書き、写真もまとめて同封している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季折々の季節、イベントを感じてもらえるようにインテリアし、職員同士で話し合いお年寄りに優しい環境作りを心がけ、温かみのある空間を目指している。	このホームのキャラクターは“ふくろう”。玄関からリビングルーム・廊下にふくろうがあちこちのインテリアに生きている。市の職員だった人から始まって、今も職員が好きで買ってきたり、お土産に貰うそう。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	身体機能の低下に伴い居間で過ごす時間が少なくなってきたが、個々の体調や状況に合わせて過ごしてもらい、お年寄り同士の関係を築いてもらえるよう職員が間に入り過ごして頂いている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室の家具は出来るだけ使用していた馴染みの物をご家族にお願いしている。又、本人の好む色や写真、家族からの手紙等を飾ったり居心地の良い空間となるよう工夫している。	このホームの利用者は全員が女性。そして生活の期間も長い。家族もよく来てくれる。それぞれの部屋の造りも違い、各家族の持ち込んで来た家具や道具、調度品や写真・作品等、中には仏壇もあり、個性が生かされている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室、身体状態・体系に合わせて、手すりを設置している。また、車椅子使用されている方が多く、体系や状態に合わせたものを使って頂いている。		